

# イラン：悲惨な人権状況に対処しない新政権

## 1. はじめに

アフマディネジャード大統領就任後 6 ヶ月たったが、イランの人権状況は劣悪なままである。何十人もの政府の批判者や反対者が引き続き投獄され、その多くは極端に不公平な裁判によるもので、死刑が広範に適用され、拷問が日常的に行われている。当局は表現および結社の自由に厳しく規制しており、宗教的少数者や少数民族が迫害を受けている。女性は法律上および運用でも厳しく差別されており、弁護士、ジャーナリストやその他の人権支持の立場から発言する人びと、イランの勇敢な人権擁護活動家は、治安当局による嫌がらせ、投獄、その他の虐待の危険にさらされているが、治安当局は免責されている。

このような虐待は長く定着しており、1997 年に改革をかかげたハタミ大統領就任後、またはその 4 年後に前回は上回る得票で再選されることで、虐待が多少とも解決すると多くが期待した。しかし、ハタミ政権では人権に関する制限の緩和がわずかに見られたものの、実際にはハタミ大統領とイラン最高指導者のハメネイ師を支持するさらに保守的な勢力との間の政治的駆け引きもあり、大きな進展は見られなかった。ハタミ大統領の任期末期で、体制批判者、特にジャーナリスト、インターネットで発信する人びとや人権擁護活動家の逮捕、拘留や嫌がらせが増加するなど人権問題について後退が見られた。

2005 年の大統領選において、前テヘラン市長でかつての革命特別防衛軍のメンバーであったアフマディネジャード氏が予想外に圧倒的な勝利を勝ち得たことはこうした背景に反する出来事であった。彼は大規模な経済基盤の拡大を宣伝し、政治腐敗の終焉と貧困層の条件改善を政策課題に掲げた。彼の選任はハメネイ師一派の更なる権力強化の一環との見方が一般的である。

アムネスティ・インターナショナルは 2005 年 8 月にアフマディネジャード大統領に対し、彼の経済や社会的権利の改善に対する公約に歓迎の意を表すると同時に、任期中に人権を最優先課題にするよう書簡を送付した<sup>1</sup>。しかし、彼の就任後数ヶ月にわたりイランの人権にまったく改善は見られない。他方、イランの核開発計画に関する論争を引き起こし、ホロコーストやイスラエルに関する発言で広範な国際的批判を招くなど、さらに厳しい弾圧政策を開始しようとする予兆がある。本報告書は過去半年以上にわたって起きている人権侵害について述べ、特にイラン国内のアラブ人やクルド人といった少数民族、バハーイーのような宗教的少数者に広く見られる不安に対しイラン当局がどのような措置を取っているか、また、ジャーナリストや人権擁護者に対する表現・結社の自由の制限について焦点をあてた。本報告書は包括的ではないが、イランにおいてほぼ日常的に起きている広範かつ顕著な人権侵害に対して注意を喚起することを目的にしている。アムネスティは 1979 年のイスラム革命直後の調査以来イランに行っていないが、本報告書はイラン内外の広範な情報源をベースにしている。

## 2. 少数派への弾圧

平等は憲法上保証されているにもかかわらず<sup>2</sup>、少数者（イランの総人口 7 千万のほぼ半数といわれる<sup>3</sup>）に

<sup>1</sup> イラン：アムネスティは、人権を最優先課題とする新しい大統領要求する（AI インデックス MDE 13/041/2005）を参照。

<sup>2</sup> 3 条（14）はあらゆる法律に対し、平等を規定している。15 条では「地方や民族の言語」の使用や、公用語としてのペルシアン  
Amnesty International February 2006

に属する人びと<sup>4</sup>は法的ならびに社会習慣上の差別の対象となっている。例えば土地・財産の没収、「ゴジネシュ」という選別基準による公務員雇用の拒否<sup>5</sup>、社会、文化、言語、宗教上の自由の制限といったものがそれにあたる。こうした差別は、良心の囚人の投獄<sup>6</sup>、革命裁判所での政治囚のきわめて不公平な裁判、身体刑や死刑の執行、移動の制限や他の市民的権利の否定といった人権侵害を引き起こす。

イランの少数民族にはアラブ人、トルコ系アゼルバイジャン人、クルド人、トルクメン人がいるが、ほとんどがシーア派またはスンニ派のイスラム教徒である。宗教上のマイノリティは3つ、すなわち、キリスト教徒（アルメニア、アッシリア、カルデア・カトリック、多くのプロテスタント宗派を含む）、ユダヤ教徒、ゾロアスター教徒であるが、憲法 13 条において自己の信仰を實踐することが認められている。一方、バハーイー、アウレ・ハク（Ahl-e Haq）、マンダヤ教（サバイーンズ）といった認知されていない宗教の信者は自己の信仰を實踐することを許されず、差別や国際的に認知されている人権侵害の危険性にさらされている。

イラクの少数者集団が現在直面している問題の一部は 2005 年 7 月に適切な居住権に関する国連特別報告者がイランを訪問し、国際的な注目を浴びた。報告者による準備所見は<sup>7</sup>、国家財産の分配、住居の立地と質、居住地域での水および衛生状態において少数者は差別されており、「土地収奪」政策によって不当な影響を受けていると述べた。

## 2.1 少数民族

以下に述べる民族以外、例えばバルチスやトルクメンといった少数民族やノマド（遊牧民）も同様の差別を受けている。しかしアムネスティはアフマディネジャード大統領就任以降、これらの人びとに対する具体的な人権侵害の情報を得ていない。

### 2.1.1 アラブ人

イランのアラブ人コミュニティはほとんどがシーア派イスラム教徒でイラン総人口の 3~8%を占めている。アラブ人は主にイラク国境に接しイラン油田の大部分を占めるフーゼスターン地方（アラブ人社会からはアフワズ Ahwaz として知られている）に居住している。イラン・アラブ人コミュニティの人びとは長年、歴代の政府に対してアラブ人が社会発展のための資源配分の中で置き去りにされているという不満を持っている。欲求不満や経済的損失が広がるにつれ、ここ数ヶ月間で激しい抗議行動と制圧の繰り返しが続いているが、イラン当局が社会・経済等の不満に対して必要な措置を採らない限り続きそうである。

---

ャ語の制定に加え、学校で「民族文学」を教えることを許可している。19 条「全イラン国民はいかなる民族・種族に属していても平等の権利を享受し、色・人種・言語によって特権が与えられることはない。

<sup>3</sup> 現在のところ、国際的に合意された少数民族の定義は無いとアムネスティは認識している。しかし我々は、数値的に少数であることよりも、被支配的民族であること、宗教的・語学上コミュニティの方に重きを置いている。アムネスティは、少数民族の存在は妥当で客観的な基準に基づき決定される問題であると考えている。少数民族のメンバーであることは自分自身の判断で決められる：基準が不足している場合、少数民族のメンバーであることは自身の帰属意識によって判断されるべきである。

<sup>4</sup> イランは人口構成がわかる人口統計の公式資料を公表していない。

<sup>5</sup> 州の職員のデモ要求、イスラムと法学者の統治（ヴェラーヤテ・ファギーフ Velayat-e faqih）の思想を含むイラン・イスラム共和国への忠誠を含むイデオロギー選択の方法。差別的な選別（gozinesh）の手段についての詳細は、91 回国際労働会議のアムネスティの懸案事項（AI インデックス IOR 42/003/2003）を参照。

<sup>6</sup> 政治上・宗教的・良心的思想、種族的出身、性別、皮膚の色、言語、国籍、経済的地位、生まれ、性的嗜好や他の身分によって投獄されている人や身体的拘束を受けている人に対し、暴力を使ってはならない。また、暴力擁護・憎悪を示してはならない。

<sup>7</sup> [www.ohchr.org/English/press/docs/20050809PreliminaryNotesonSRMissiontoIran.doc](http://www.ohchr.org/English/press/docs/20050809PreliminaryNotesonSRMissiontoIran.doc)

## 経済・社会・文化的権利

イランのアラブ人はイランの中で最も経済的・社会的に権利を奪われている民族の一つである。人口のほとんどがアラブ人という地域においても学校ではアラビア語での授業が禁止されていると伝えられている。文盲率は高く、とりわけ地方のアフズ・アラブ人女性に目立っている。アラブ人は選別のため公務員としての雇用を拒否されている。多くの村や居住地では上水道、衛生状況、電気その他の公共サービスが不足していると伝えられている。

アムネ스티はアフズ市の水供給が頻繁かつ不規則に中断されるのは明らかにカールーン川の水がエスファハーンやサナンダジへ流用されているためであるという報告を受けた。2005年12月には状況はさらにひどくなり、人びとは一週間に一回しかシャワーを浴びることが出来ず、路上のタンクローリーから飲み水を買わなければならなかった。同じく2005年12月にはフーズスターン地区選出のマジュレス（国会）の議員<sup>8</sup>はカールーン川の水がラフサンジャンおよびエスファハーン地区に流用されていることに対してエネルギー相の弾劾請求を行い、2006年1月には流用が今後も続いたら総辞職も辞さないと言った脅しをかけた。また一方、水不足にもかかわらず、ハイゼやブースタンのアフズ・アラブ人居住地域を流れるキャルヘ川の水がクウェートに転売されているという報告もある。

また、イラン当局による土地収用は広範に行われており、アラブ人を伝統的な居住地から立ち退かせる政策だという噂もある。これは明らかにアラブ人を強制移住させる一方で非アラブ人のフーズスターンへの通行を容易にさせる戦略の一環であり、地方のアラブ人には利用できないゼロ金利ローンといった経済政策にもリンクするものである。

2005年10月に、アルバンド自由貿易地域機構によるアラブ人の土地や村を含む155平方キロの収用計画に関する2005年7月9日付けの書簡が明るみに出た。これはアバダンとイラク国境のアルバンド自由貿易地域機構のために提供されることになっている<sup>9</sup>。この地域に住むすべての人びとの土地が没収されることになる。イランの法律の下では補償額に関する事以外に土地の収用は拒否できない。補償額は実勢価格の40分の1といわれている。

2005年6月の適切な居住権に関する国連報告者はインタビュー<sup>10</sup>に答えて：

「...あなたがアフズを訪れた時...何千という人びとが屋外トイレと不衛生で水も電気もガスもない状態の中で生活をしている...なぜか?なぜ特定のグループだけが恩恵を受けられないのか?...再びフーズスターン...市の郊外を20kmほどドライブし、川に沿ってサトウキビ農場やその他の大規模開発プロジェクトが進められている地域を訪れた。推定で約200,000~250,000人のアラブ人がこれらのプロジェクトのために彼らの村から移住させられているようだ。私の心の中に浮かんだ疑問は何故これらのプロジェクトが何世代にもわたってアラブ人が居住して来たまさにその土地で行われているのかということだった。私は役人にも周りにいる人たちにも尋ねてみた。そしてフーズスターンには他に移住を最小限に抑えることの出来るプロジェクト用の代替地があるのがわかった。」

<sup>8</sup> The Islamic Consultative Assembly や Majiles とは、イランの国会にあたる。

<sup>9</sup> この文書は <http://www.ahwaz.org.uk/images/Arvand.pdf> で見られる。

<sup>10</sup> <http://www.irinnews.org/report.asp?ReportID=48518&SelectRegion=Asia>

彼はまた、非アラブ人を当該地域に移住させようという政府の試みについて言及している。例えば主にヤズ地方から移住した非アラブ居住者が住むシリンシャフという新しい町について。さらに彼はフーズスターンの油田から生み出された富と抑圧されているアラブ人という矛盾についても指摘している。

### 武力の行使

アフマディネジャード大統領就任以降、フーズスターン地方での激しい不穏状態の中で治安部隊の恐らく行き過ぎた武力行使により数人が死亡し、何十人もが負傷した。こうした治安活動は 2005 年 4 月に始められ<sup>11</sup>、2005 年 10 月と 2006 年 1 月にアフワズ市で起きた爆発事件では少なくとも 12 人が死亡し、数百人が負傷した。2005 年 9 月と 10 月には経済的に重要な油田設備への攻撃が行われた。イラン当局は英国政府が爆破に関与していると非難したが、英国は否定している。

- 2005 年 9 月半ばイランの治安部隊は投石するデモ隊を鎮圧するために実弾、催涙ガスの使用ならびに警棒による殴打を行った。少なくとも 2 人が死亡し、多くが負傷したと伝えられている。後になって当局に対しゴベイシュ部族 (al-Bughobeysh) のいくつかの村への水供給が遮断されたことが報告された。これは多分デモに参加した住民に対する報復であろうと思われる。
- 2005 年 11 月 4 日イード・アル・フィトル (断食月明けの祭) の日、多分それ以前の逮捕に対する抗議 (下記参照) もあったと思われるが、数百人のイラン系アラブ人のデモ隊がアフワズ市中心部に向けてデモ行進を開始し、イラン治安部隊と衝突した。乱闘が起きたのであろうと思われるが、イラン治安部隊は催涙弾を群集に向けて発砲した。一時的に麻痺状態になるといわれる催涙弾がアラブ人の若者 2 人に命中し、カールーン川に落ちて溺れたといわれている。何百人ではないにしろ少なくとも何十人のデモ参加者が逮捕された。アムネスティはイラン当局に対しこれらの死因を調査すること、そしてイランの法執行官により武力や武器の使用ルールを明確にすること、さらにはこうしたケースにおいて非暴力的な方法で群集を解散させる方法がないかどうか、催涙ガスを使用する前に群衆に対して警告を発することが出来ないかといったことを要望した。2006 年 2 月初旬時点で当局からの回答はない。
- 2006 年 1 月 11~12 日にフーズスターンで起きたイラン治安部隊とアラブアフワズ住民との衝突で少なくとも 3 人が殺害され、約 40 人が負傷した。衝突は、イード・アルアドハーというイスラム教の生贄の祭りでの平和的デモ行進から起きた。デモ隊はアラブ人に対する宗教的迫害、貧困、失業に終止符を打つことと 2005 年に逮捕された政治犯の釈放を要求したと伝えられている。

---

<sup>11</sup> この騒乱は 2005 年 4 月から始まり、1999 年に大統領顧問官 (信憑性が疑われている) によって書かれたとされる手紙への抗議デモに参加した、少なくとも 31 人、場合によっては 54 人以上のアラブ人が死亡、数百人が負傷し、数百人が拘留された。この手紙には、アラブ人のイラン他地域への移住、この地方に住む非アラブ人の移住、Persian と呼ばれるアラブ人居住区の移動を含める、フーズスターン州のアラブ人人口を減少する方針を固める旨が書かれていた。英語に翻訳されたものは <http://www.ahwaz.org.uk/images/ahwaz-khuzestan.pdf> で見られる。手紙を書いたとされる著者が否定される点と内容についての説明は <http://www.wevneveshteha.com/>。(ペルシャ語)で見られる。治安部隊はデモを止めるために非合法的な殺人や超法規的処刑といった過剰な武力を使ったようだ。政府と議会 (Majles) はどちらも、騒乱についての質問を制限し始めている。詳細はフーズスターン (Khuzestan) イラン: アムネスティはフーズスターンでの暴力サイクルの終結と、最近の騒乱に関しての根底の調査を呼びかける (AI インデックス MDE13/017/2005) を参照。アフワズの 4 回にわたる選挙戦での爆破では、10 人以上が殺され、少なくとも 90 人以上が負傷したとして、多くの人が逮捕され、テヘランでもさらに二人が逮捕された。

## 拘禁

アフマディネジャード大統領就任以降、何百人ものアラブ人が逮捕され、多くが拷問や虐待の危険にさらされている。フーズスターン地方、特に州都アフワズでは大量の逮捕者発生の結果、刑務所の過密状況が伝えられている。ある被拘禁者によると、拘禁された時、約 800 人収容のカールーン刑務所には 3,000 人以上の囚人がおり、各部屋では全員が一緒に横になることが出来ないため、交代で睡眠をとっていたという。この過密状態により衛生状況は極端に悪化した。12 歳の子どもは大人の囚人と一緒に拘禁されたという。これらの被拘禁者のうち数人は革命裁判所のきわめて不公平な裁判の後、懲役刑か死刑を宣告されるであろうと考えられている。

アフマディネジャード大統領就任以降拘禁されたと報告された人のうち、アムネスティは 250 人以上の人前を受け取った。以下はその具体例である。

- ・ 8 月にアラブの部族長でビジネスマンのハジ・サレム・バウイ (**Haji Salem Bawi**) は 5 人の息子、いとこそして親戚 2 人と共に拘禁された。彼は後に釈放されたが、彼の 2 人の息子、イマド (**Imad**) とザメル (**Zamel**) は 2005 年 10 月に死刑の宣告を受けた。彼らが有罪とされた正確な起訴理由はアムネスティは分からない。ハジは釈放後アフワズ市のアマニヤ刑務所で 3 人の息子に会い、彼らが拘禁中に虐待や拷問を受けていたと報告した。2005 年 12 月時点において、拘禁されている人は弁護士にも家族にも会うことが出来ない。
- ・ ハミド・ガテ・ポウル (**Hamid Gate'Pour**) はアフワズ市 第 2 地区の教育長だが、2005 年 9 月 15 日頃、アフワズ市の第 2 地区で逮捕された。モハンマド・ヘズバウイ (**Mohammad Hezbawi**) は宗教紙ハムサエの編集者で、2005 年 9 月 18 日にハミドの逮捕についての記事のことで、彼もまた逮捕された。しかし数日後に釈放された。
- ・ ラマダンの最終週の、イード・アル・フィトルが行われていた 2005 年 11 月 3 日に、少なくとも 81 人が、イフタールの間に行われる伝統的なマハビスと呼ばれるアラブの文化的集会で逮捕された。これらの逮捕者の中にはアフワズ・アル・アムジャド文化センター長のザハラ・ナッサール・トルフィ (**Zahra Nassar-Torfi**) 氏があり、彼は拘禁中に拷問を受けたと報告されている。(4.1 参照) さらには詩人のハミド・ハイダリ (**Hamid Haydari**) 氏とその家族 6 人:モハンマド・モジャダム (**Mohammad Mojadam**)、ハミド・モジャダム (**Hamid Mojadam**)、メフディ・モジャダム (**Mehdi Mojadam**)、ラソウル・モジャダム (**Rasoul Mojadam**)、クハレド・バニ・サラフ (**Khaled Bani-Saleh**) とハッサン・ナスリ (**Hassan Naisi**) も含まれている。ザハラ・ナッサール・トルフィ氏を含む、これらの人びとの多くは 2005 年 11 月 14 日に保釈され、現在裁判待ちの状態にあるという。
- ・ 2006 年 1 月 11 日には、アフワズにあるダイラモスクの主席祈禱師であるシェイキ・サラ・アル・ハイダリ (**Sheikh Saleh al-Haydari**) 師率いる平和的デモ隊と治安部隊との衝突が起き、少なくとも 3 人の子どもを含む数十人が逮捕された。師も拘禁されており、師は拘禁に抗議してハンガーストライキを 2006 年 1 月 25 日に開始したと伝えられている。デモの翌日の 2006 年 1 月 12 日にはハミディヤ市で前日の逮捕に抗議するデモ行進の後、数十人が拘禁された。

### 2.1.2 クルド人

イラン国内のクルド人は主にスンニ派イスラム教徒であるが、人口の7～10%を占め、イラクおよびトルコと国境を接し、農業を主要な経済活動とする北西部の地域に多く居住している。つい最近では連邦制による解決を求めて武力闘争を放棄しているものの、何年もの間、クルド人民主党 (Kurdistan People's Democratic Party (KDPI)) やコマラなどのクルド人組織はイラン・イスラム共和国に対して武力による抵抗を行ってきた。イランは、トルコのクルド労働者党 (PKK : 2004 年に活動を開始したと伝えられる) と関わりを持つ PJAK (Kurdistan Independent Life Party) の出身者を多く擁する武装反対勢力に対峙している。2005 年 9 月、アゼルバイジャン西部の司法局長官は、2005 年 3 月以来、PJAK との衝突で 120 人以上の治安部隊員が死亡し、64 人が負傷したと述べた<sup>12</sup>。

結果として、クルド人は長期に渡ってイラン当局から疑いの目で見られ、行政という点では、クルド人地区の開発や人権確保に必要なサービスを含む基本的な公共サービスの提供について何十年もの間無視されてきた。たとえば、適切な居住権に関する国連特別報告官は、準備報告書<sup>13</sup>の中で、「イーラームなど歴史的にクルド人に支配されてきた地域では水道、電気などのサービスが不均衡かつ不適切であり、再建事業が不十分なために苦しんでいるようだ」と述べた。また、クルド人は教育面でも不利な立場に置かれている。女性の識字率は、イラン全体では約 75%だが、クルド人地域では 56.7%と報告されている。<sup>14</sup>

クルド地域における暴力を伴う社会不安は 2005 年 7 月、アフマディネジャード大統領の選挙の直後に勃発し、イランの治安部隊がクルド人反対派活動家のシヴァン・カデリ (Shivan Qaderi) に発砲、殺害した後、数週間続いた。報告によれば、彼の死体はジープにくくりつけられて通りを引きずられた。何千人ものクルド人が抗議のために通りに集まった。治安部隊は、少なくともデモ隊が行政政府のビルや事務所を攻撃した地域で、軽・重火器で応戦したと伝えられる。20 人が死亡したとされ、何百人もが負傷した。当局は、サケーズで 2 人、55 歳の元教師 モハンマド・シャリアティ (Mohammad Shariati) と 18 歳のファルザド・モハンマディ (Farzad Mohammadi) を含む 5 人が死亡したとし、彼らの死亡については現在調査中であると述べた。クルド関係筋は、モハンマド は、デモ隊を解散させようとして実弾を発砲した治安部隊に頭を撃たれたと伝えている。公式発表では少なくとも 190 人が逮捕されたが、実際の数はもっと多い可能性がある。

デモによる社会不安に関しては、政府とマジュレスによる調査が開始されたが、結果は公表されていない。マジュレスのクルド人国会議員数人は、サナンダジ (Sanandaj) のメンバー、フシャング・ハミディ (Hushang Hamidi) を含むクルド人から寄せられる陳情処理に関して政府を批判したとされる。彼は、「問題を提起することはできるが、我々の要求が法にかなっているにもかかわらず、解決策を見出し欠陥を是正することには問題がつかまとう。我々には市民としての要求がある。我々は市民としての権利がほしい。我々は福祉と法的権利の監視、クルド人地域の管理や実力者支配を含むあらゆる側面で平等を求める。これらは憲法第 48 条が適用されていない地域である」と述べた<sup>15</sup>。マジュレスの別のクルド人国会議員、アミン・シャバニ (Amin Shabani) は、「このような情勢不安の根本にあるのは、政府の役人がクルド人の要求に直面すると

<sup>12</sup> ISNA 2005 年 9 月 3 日

<sup>13</sup> [www.orchr.org/English/press/docs/20050809PreliminaryNotesonSRMissiontoIran.doc](http://www.orchr.org/English/press/docs/20050809PreliminaryNotesonSRMissiontoIran.doc)

<sup>14</sup> ILNA : 2005 年 10 月 17 日

<sup>15</sup> ISANA 2005 年 8 月 9 日

約束をするくせに、これまで何も実行していないことだ」と言った。彼は司法当局が過剰な権力を用いていることを非難し、国営ラジオ・テレビ局が正確な情報を提供しないことを批判し、社会不安の要因として失業を挙げた。また、内閣にスンニ派イスラム教徒がいないことも批判した<sup>16</sup>。

2005年8月に逮捕されたクルド人には、ジャーナリストや人権擁護者が含まれていた。

- ・ ロヤ・トロウイ (**Dr Roya Toloui**)、平和と人権を守るクルド女性連盟 (**Association of Kurdish Women for the Defence of Peace and Human Rights**) の創設メンバーで、文化教養雑誌ラッサンの編集者。サナンダジの自宅で2005年8月に逮捕され、数週間、家族や弁護士に会うことが許されなかった。2005年10月に保釈された。彼女は2006年1月に、「合計で少なくとも10件の容疑が私にかけられました。他の人ならばどれも犯罪とは見なされないものですが、私の場合は、たとえばイラク国内で私の本 (*Al-Sulaymaniyah*) がクルド語で出版されていることが犯罪とされました。他にも容疑があり、最も重要なのは国家治安に反して活動したこと、様々な海外ラジオ局のインタビューに応えたことで、体制に関する虚偽の情報を広めたと見なされました」と語った<sup>17</sup>。彼女は逮捕に先立って数回取調べを受けていた。<sup>18</sup>
- ・ アジラル・カヴァミ (**Ajlal Qavami**)、週刊誌 *Payam-e mardom-e Kurdistan* のジャーナリストで新聞 *Payam-e Mardom* (人民のメッセージ) の編集委員会メンバー。また、週刊新聞アソウで働くフリージャーナリストサイド・サエディ (**Sa'id Sa'edi**) も2005年8月2日に逮捕された。アジラルは投獄に抗議して何度もハンガーストライキを行ったと言われる。両者とも2005年8月に保釈されたが、死刑にも相当する不明瞭な容疑という。
- ・ マデフ・アフマディ (**Madeh Ahmadi**)、ジャーナリスト。イラクに隣接するクルド人地域を訪れた後、サルヴァバド国境地域で2005年7月28日に逮捕され、不法出国を含む様々な容疑によりマリヴァン刑務所に4ヶ月拘留されたと言われる。拘留に抗議して、2005年9月にハンガーストライキを実行した。2005年11月、裁判所による保釈命令に当局が従わなかった際に彼は再度抗議のためにハンガーストライキを行い、口を縫い合わせたという。2005年11月28日に釈放されたが、「国家治安を脅かし、海外メディアのインタビューを受け、反対派と接触を持った」ことを含む29の容疑をかけられた。2006年1月、不法出入国の罪で1年の服役と50回の鞭打ちの刑が言い渡されたという。
- ・ ボルハン・ディヴァルガル (**Borhan Divargar**)、貿易連盟の活動家で子どもの権利擁護者。6ヶ月拘留され、その間暴力を受けたと伝えられるが、その後保釈され、自由な労働組織を設立する委員会 (*Committee to Follow up the Establishment of Free Labour Organisations*) のメンバーであること、新たに設立され、*Tashakol* ([www.tashakol.com](http://www.tashakol.com)) と呼ばれる労働者のウェブサイトを実行する失業者の組織 (*Unemployed Workers' Organisation*) のメンバーであること、サケーズのデモに参加したことを含む容疑をかけられているとされる。2005年11月まで彼の弁護士は彼のファイルを見ることを許されていないと報告されており、2005年12月、夏のデモ事件との関連でサケーズの革命裁判所の第一支

<sup>16</sup> Mardom-e Salari 2005年8月13日

<sup>17</sup> ラジオ・ファルダ(Radio Farda)のインタビュー 2006年1月27日

<sup>18</sup> 詳細は、イラン：ストップ クルド人の人権擁護活動家への脅迫 (AI インデックス MDE13/010/2005) 参照。

部において他の 51 人のクルド人と共に裁判にかけられたといわれる。そのうちの 4 人は未だ拘留中である。

- ・ モハンマド・サデク・カヴドヴァンド (**Mohammad Sadeq Kabudvand**)、クルド語とペルシア語で出版される週刊誌 *Payam-e mardom-e Kurdistan* の編集者で、テヘランに本拠を置くクルド人権団体 (**Kurdish Human Rights Organization (RMMK)**) の議長でもある。2005 年 8 月、デモ事件の時に一時に拘束された。彼はその後、サナンダジ革命裁判所において、「世論を覆す意図でうそを広めた」罪で 1 年の服役、および「民族の問題を宣伝し、扇動的な記事を出版した」罪で 6 ヶ月の服役と 5 年間のジャーナリスト活動禁止という判決を受けた。どちらの服役の刑も裁判所は留保した。彼の新聞は当局により閉鎖された。
- ・ その他の被拘禁者も、社会不安に関連したとして革命裁判所での裁判により服役の刑または残酷で非人間的な懲罰を受けた。2005 年 10 月、報告によるとモルテザ・ソレイマニ (**Morteza Soleymani**) は、「国家治安に反して活動し」、「反体制的闘争を行った」罪でサナンダジの革命裁判所により 1 年の服役を言い渡された。*(moharebeh ba nezam)* マリヴァン出身の アンワール・デラクフシャニ (**Anwar Derakhshani**) は 1 年と 8 日の服役および 70 回の鞭打ちの刑を言い渡されたと伝えられる。サケーズ出身のシャフラム・アンサリ (**Shahram Ansari**)、ログフマン・モハンマディ (**Loghman Mohammadi**)、ジャマル・アミニ (**Jamal Amini**)、バクフティアル・コシュナム (**Bakhtiar Khoshnam**) は、それぞれ 4 年、1 年、2 年、2 年の刑が確定したとされる。アムネスティは、彼らの罪状を把握していない。

少なくとも他のクルド系新聞 2 誌、アソウ およびアシュティが、逮捕の時期に当局によって閉鎖され、デモの記事を掲載したことが原因と伝えられている。また、サナンダジ大学を含む多くの大学では、クルド語の学部が当局により閉鎖されたと言われる。

- ・ 2005 年 10 月 25 日、シヴァン・カデリ (**Shivan Qaderi**) 殺害時 (上記参照) に拘束された モスタファ・ラスルニア (**Mostafa Rasulnia**) がオロウミエフ刑務所で死刑が確定したというニュースが流れると、治安部隊がマハダッドのデモ隊と衝突し、報告では少なくとも 2 人が重傷を負った。その中の 1 人、ラソウル・ユスフィ (**Rasoul Yusufi**) は病院に搬送され集中治療を受けたという。逮捕者の数は明らかにされていない。モスタファ・ラスルニア (**Mostafa Rasulnia**) は後に治安部隊の隊員を殺害したという自白によって死刑判決が出たが、拷問によるものと伝えられ、彼の罪は 5 年間の服役に減刑された。

2005 年 11 月の断食明けの祭りのとき、治安部隊はマハダッドの住民がシヴァン・カデリ (**Shivan Qaderi**) の墓参りに行くことを禁止し、再びデモが発生した。治安部隊は、石を投げ、スローガンを唱えるデモ参加者を殴り、発砲したと伝えられる。アムネスティは、10 人が逮捕され、ユセフ・ソレマニ (**Yusuf Solemani**) を含む 10 人が逮捕され、ショレシュ・チュカリ (**Shoresh Chukali**)、モハンマド・チュカリ (**Mohammad Chukali**)、ソレイマン・アルナム (**Soleyman Alunam**) の 3 人が負傷したといわれている。

### 2.1.3 トルコ系アゼルバイジャン人

イランのトルコ系アゼルバイジャン人は、イラン人口の 20~30%を占める最も大きな少数派集団であると

いわれる、イスラム教シーア派である。彼らは、イラン北部及び北西部に集中している。シーア派なので他の宗教を信仰する少数派集団のような差別は受けておらず、経済的にも十分に統合されている。しかし、さらなる文化および言語的権利保障、たとえばトルコ語媒体による教育を憲法上の権利として要求している。その一部少数派はイラン・イスラム共和国から分離しアゼルバイジャン連合共和国に統合する活動を推進している。トルコ系アゼルバイジャン人の文化的アイデンティティの促進を要求する人びとはイラン当局から目を付けられ、「汎トルコ主義の推進」というあいまいな容疑で起訴されることがしばしばある。

2005年6月末、カライバーのバベック城で年1回の文化集会をしていた多数のイランのトルコ系アゼルバイジャン人が拘束された。少なくとも21人が「体制に対するプロパガンダを表明」と「体制に反対する組織の設立」の容疑で3ヶ月～1年の間 刑務所に収容されていた。また、その中の数人は、カライバーから約10年間の追放が言い渡された。

- ・ イランのトルコ系アゼルバイジャン人の一人であるアバス・リサニ (**Abbas Lisani**) は、2004年にバベック城の行事の際 逮捕され、その後拘禁され暴行を受けた。2005年7月に保釈された。しかし、同年8月には「プロパガンダを広めた」及び「世論の妨害」容疑で、1年間の禁固刑が執行された。2006年1月、彼は保釈され、執行された刑に対して異議申し立てを行っている。
- ・ ハジャストレスラム・ヴァル・モスレミン・エジミ・ケディミ (**Hajjatoleslam val Moslemin Ezimi Qedimi**) は、タブリーズのアゼルバイジャン地方の首府であるヴェルジカン出身のイラン系アゼリー人イスラム聖職者である。彼はイランの1906年の憲法草案者であり、国の選挙により制定された民主議会の設立を促したバギル・ハン (**Baghir Khan**) という人物の墓の近くで2005年8月5日に逮捕された。彼は2005年10月24日頃、「霊廟での違法集会を率いた；シャムス・エ・タブリーズ ウェブサイトの公開インタビューを受けた；アナ・ユルドゥテレビ局のインタビューを受けた；イスラム共和国への反対；裁判所の侮辱；ラスル誌の配布準備の支援；ゴムの従順な若い学生を誤った方向に導いた」などの罪状による裁判を待つため、保釈されたという。また2006年1月、彼は一度も弁護士や通訳と面会する事無く、タブリーズにある聖職者<sup>19</sup>の為の特別裁判所の支部でカメラを通して「国家に反対するグループを指示し活動した」容疑で、1年間の禁固刑が宣告された。さらに「聖職者の品位を汚した」容疑でイスラム教学識者としての資格が10年間剥奪される事となった。また、彼は移動に関しても、イランから離れることや東アゼルバイジャン州、西アゼルバイジャン州、アルダビール州、ザンジャーン州へ戻ることを5年間禁止された。2006年の1月末、彼は自由になることを願い、判決に対し異議を申し立てた。
- ・ アバス・ニクラヴァン (**Abbas Nikravan**) はサルマス音楽組合の会長であり、またトルコ系アゼルバイジャン人の運動家でもある。トルコ系アゼルバイジャン人の文化を推進している彼の音楽活動とも関連があるとされている「汎トルコ文化の波及と分離の支持」の罪状の上告審判決を待っていた2005年11月1日に投獄された。また、彼の家からムハモウダリ・チェフレガニ博士 (**Dr Mohmoudali Chehregani**) <sup>20</sup>の写真も見つかった。報告によると彼のケースはクホイで行われる革命裁判の前に期限

<sup>19</sup> 聖職者特別会議についての詳細は、イラン：シーア派代表と信者への人権侵害。(AI インデックス MDE13/018/1997) 参照。

<sup>20</sup> 前タブリーズ大学講師である Mahmudali Chehregani 教授は、2000年トルコ系アゼルバイジャン人の権利を主張し、良心の Amnesty International February 2006

をむかえる事になっている。その後、保釈金 2,000 万トウマン（約 22,000 ドル）を支払ったにもかかわらず 2006 年 1 月の時点で彼は、まだサラマス刑務所に投獄されている。

- ジャバド・アバッシ (**Javad Abbasi**) は、サラマス出身の教師で、トルコ系アゼルバイジャン人の運動家でもある。クホイでの革命裁判で「汎トルコ組織との接触と分離の促進」が指摘され、2005 年 12 月から 6 ヶ月間投獄されている。また彼はバベック城のイベントに参加し「イラン・イスラム共和国崩壊への運動、国家治安妨害、アゼルバイジャン国家運動を支持する出版物の作成」をした容疑をかけられている。彼の判決は、彼が学校でトルコ語による授業を行っていた事が大きく影響しているとされている。彼は喉の病気を患っており、治療を受ける必要があるとされている。
- ヘダヤト・ザクウェル (**Hedayat Zakwer**) はタブリーズ出身の教師であり、またトルコ系アゼルバイジャン人の活動家でもある。彼は 2005 年 12 月 24 日にタブリーズの革命裁判にて、1 年間の禁固刑の判決を受けた。治安部隊は彼が逃亡する事を恐れ、この判決が下される一日前に逮捕した。この判決は最高裁判所によって承認されたのだが、彼の弁護士もヘダヤトもその判決の書類のコピーを受け取っていないと証言している。
- ヤシュール・ハカクポール・マラグヘイ (**Yashar Haqqaqpour Maraghei**) は、ザンジャン大学で建築学を専攻している学生であり、大学内のイスラム学生組合の一員でもある。彼は 2006 年 1 月 21 日に、マラーゲにある彼の父親の店先で治安部隊によって、正当な理由も提示されず行き先も告げられず強制的に連行された。彼の家族は、治安部隊に取り合っ彼を探した。そして 2006 年 2 月に家族に電話があり、彼がタブリーズに送られたという事が伝えられた。
- ダブード・アジムザデフ (**Davoud Azimzadeh**) は学生時代に環境科学を学んだ後、マラーゲで教師となった。彼は地方教育部に呼び出された後、2006 年 1 月 23 日に情報省によって逮捕された。報告によると彼の逮捕は、彼が書いたマラーゲの環境汚染に関する記事が影響しているのではないかとされている。

トルコ語を使用するジャーナリストや出版社もまた制圧を受け、悩みを抱えている。2005 年 9 月、タブリーズ大学の学生により「アラズ」という政治・文化・歴史的な内容の書物がペルシャ語とトルコ語で発行されたが、全て回収された。伝えられた所によると、表紙にアゼルバイジャン共和国の地図を載せた事が、原因であるようだ。また、ザンジャン大学のトルコ人の学生によって発行された「キジル・ウゼン」もまたレイハナフ・プルゲニ (**Reyhaneh Purgeni**) によると 2005 年 11 月 30 日に学生出版監視委員会によって制圧された。理由として、分断を推進していると思われる事が挙げられている。レイハナフもまたザンジャン大学のイスラム学生組合の一員であり、彼女の父親がザンジャンの情報部に彼女の事が密告されたという電話を受けた直後、2006 年 1 月 20 日に拘束された。ザンジャン大学の学生出版の編集者であり、「ザンガン・ソズラリ」という書物を手がけたマレファトラフ・ファズリ (**Marefatollah Fazli**) も 2006 年 1 月、聞き取り調査のため、連行された。

---

囚人として投獄された。(AI インデックス MDE13/011/2000 参照) 彼はイランを去り、GAMOH (South Azerbaijan National Awakening Movement) の代表になった。

## 2.2 宗教的少数者

アフマディネジャードが大統領に選出されて以来、イランにおける宗教的少数者も、単に信仰を理由として殺害されたり、拘禁、あるいは嫌がらせを受けたりしている。ユダヤ教、キリスト教、ゾロアスター教といった認可されている宗教でさえ、これら少数派は法律上も運用上でも、雇用、結婚、刑事処罰などで差別を受けている。認可されていない宗教、バハーイー、アフレハックやマンダヤ教などは、特に差別の危機にさらされている。イスラム教からの改宗は、逮捕、攻撃、死刑の可能性<sup>21</sup>がある。時折発表される公的な声明はある雰囲気形成し、非国家主体による少数派に対する人権侵害行動があたかも奨励されているかのようだ。たとえば、マジジュレスを通過した法案をイスラム法に適合しているか検証する監督者評議会の事務局長アヤトラ・ジャンナティ (**Ayatollah Jannati**) は、2005年11月20日に、1980~1988年のイラン・イラク戦争で殺された人びとのための記念行事のスピーチで次のように述べた。「人間とは、イスラム教徒以外は、地上をうろつき墮落と関わる動物だ。」

### 2.2.1 キリスト教徒

良心の囚人であるハミド・ポウルマンド (**Hamid Pourmand**) は、25年以上も前にイスラム教からキリスト教に改宗していたのだが、2005年2月に開かれた軍事法廷で3年の刑を言い渡されて以来、刑務所にいる。罪状は、自身の宗教についてイラン軍隊への偽証と「国家治安に反する行い」である。2005年5月、背教の容疑は無罪となった。彼は他の84人と共に、2004年9月にカラジでアッセンブリーオブゴッド教会の年次総会に出席していたところを逮捕された。他の84人は全員、後に釈放されている。<sup>22</sup>

ゴルバン・ドルディ・トゥラニ (**Ghorban Dordi Tourani**) (50歳) は、イスラム教から改宗したトルコ族で、ゴンバド・エ・カウスにある改宗者向けの独立系家庭教会の牧師だったが、11月22日に身元不明の人間によって殺害された。彼の死体が自宅の外で発見されて以後、様々な都市で彼以外に10人にも上るキリスト教徒が、情報省の役人により一時的に拘束され、拷問を受けた可能性があるという。キリスト教の指導者たちは、家庭教会のプロテスタント牧師に対し「政府はあなたが何をしているのか知っているし、我々はまもなくそちらへ行くことになるだろう」と伝えるように警告されている、とのことだ。ゴルバンは、この11年間で身元不明者に殺害されたプロテスタント牧師のなかで5番目にあたる。<sup>23</sup>

### 2.2.2 バハーイー

バハーイー共同体のメンバーは、イランでは認可されていない宗教的少数者である。彼らは、法律・規則上、差別の対象になっており、信仰を自由に実践する権利を妨害され、仕事や十分な生活水準への平等な権利を否定されている。実際、年金などの社会保障や雇用へのアクセスが制限されているのである。当共同体は、2005年には抑圧がひどくなっていると報告しているが、例として、身元不明者に襲われたり、墓地や聖地などを損壊したり、バハーイーに属する財産の所有権を奪うなどが挙げられている。バハーイーの信者2人が、良心の囚人として投獄されていた。メフラン・カウサリ (**Mehran Kawsari**) とバフラム・マシュハディ (**Bafrah Mashhadi**) は、2005年の早い時期にそれぞれ3年と1年の禁固刑を課されて服役していたのだ

<sup>21</sup> イスラム教からの改宗はイスラム法では禁止されており、イスラム教への再改宗を拒否した背教者へは処刑が命じられる。イラン刑法に改宗に関する条文はないが、成文法がない場合、裁判官はイスラム法の知識を援用することが求められている。

<sup>22</sup> このケースについての詳細は、Hamid Pourmand: 宗教的信念による投獄 (AI インデックス MDE1/060/2005) 参照。

<sup>23</sup> <http://www.compassdirect.org/en/news/longen.php?idelement=4099> を参照。

が、その裁判は 2004 年 11 月に当時のハタミ大統領に宛てた公開書簡に関する、不公平なものであった。その書簡には、イランにおけるバハーイー共同体への妨害行為が細かに述べられており、彼らの人権の回復への要求が盛り込まれていた。

バハーイー共同体への抑圧は、アフマディネジャード大統領が選出されて以来、続いている。少なくとも 32 人のバハーイー信者が、新大統領選出後 拘束されていることが分かっている。その後全員が保釈され、裁判が始まるから待つよう言い渡されている。彼らに対する容疑の詳細についてアムネスティは分からないが、単にバハーイー共同体の宗教上または業務上の事柄を平和的に執り行っただけ、もしくはバハーイー共同体に所属しているという、ただそれだけの理由で捕らえられたのではないかと危惧している。イラン当局や当局に統制されたメディアが、非イスラム教徒、特にバハーイー教の人たちを「悪魔扱い」することが増えるのではないかと、大いに憂慮される。アヤトラ・ジャンナティ (**Ayatollah Jannati**) が先述したことに加え、たとえば 2005 年 11 月以来、ケイハン紙はバハーイー教の信仰や信者について極度に否定的、または中傷的な記事を 30 以上も掲載し続けているので、バハーイー共同体の間にはある恐怖が広まっている。つまり、非国家主体が、彼らを虐待することに罰則もなくお墨付きを与えられているのだと感じてしまうだろう、ということだ。

- ・ ベフロウズ・タヴァコリ (**Behrouz Tavakkoli**) は、2005 年 7 月 26 日にファリダ・カマアバディ・タエフィ (**Fariba Kamalabadi Taefi**) と共にマシャードで逮捕された。テヘランからのバスが来る停留所に到着したところで捕まったのだが、彼らは、他のバハーイー教信者と落ち合っただけある業務を執り行う予定であった。ファリダは 2005 年 9 月 19 日に釈放されたが、彼女はバハーイー教を研究する人たちのための、イラン国内における教育課程を監督する調整グループの一員であった。彼女は、それ以前の 2005 年 5 月 25 日にも逮捕され、6 月 28 日に保釈されていた。ベフロウズは、バハーイー共同体における国レベルの業務遂行者で、2005 年 11 月 15 日に保釈されている。
- ・ ナシム・アシュラフィ (**Nasim Ashrafi**) そしてプーヤ・モヴァッヘド (**Pooya Movahhed**)、ナシム・ナデリ (**Nasim Naderi**)、エマド・シャルギ (**Emad Sharghi**) は全員、バハーイー共同体における若年者教育に関わっていたが、8 月 5 日に逮捕された。彼らは 2005 年 8 月 15 日に保釈された。2005 年 9 月 5 日、4 人全員がカラジの裁判所から 10 ヶ月の投獄刑を宣告され、罪名は「イラン・イスラム共和国への対抗」だが、これは過去にもバハーイー信者が拘束されるときに用いられた容疑名である。この罪名は言葉によって伝えられ、彼らが書面の提出を求めると、裁判所は作成を拒否した。彼らは今もなお保釈中の身で、判決に対し控訴できる段階を待っている。
- ・ シマ・ラフマニアン・レグハイ (**Sima Rahmanian Legha'I**)、チャンギズ・デラクフシャニアン (**Changiz Derakhshanian**)、そしてミナ・ハムラン (**Mina Hamran**) は、2005 年 9 月 14 日にガエム シャフル市で逮捕された。チャンギズは 3 日後の 2005 年 9 月 17 日に保釈された。シマとミナは、2005 年 10 月 2 日に保釈された。正式な容疑は誰も知らない。
- ・ 2005 年 9 月 21 日、マサグフ・ラグハイ (**Misagh Lagha'I**) とシャヒン・サナイ (**Shahin Sana'I**)、マフヴァンド・ラグハイ (**Mahvand Lagha'I**) は、バボル サル市で逮捕された。2005 年 10 月 11 日に彼

らは保釈されたが、正式な容疑は知らされていない。

- ・ アフシン・アクラミ (Afshin Akrami 男性)、シャフラム・ボルーリ (Shahram Boloori)、ヴァヒード・ザマニ (Vaheed Zamani)、メフラバン・ファルマン・ボルダリ (Mehraban Farman-Bordari) は、全員 2005 年 11 月 8 日にカラジで逮捕されたとのことだ。同日、ソフラブ・ハミド (Sohrab Hamid) はカリフ・ハサン (カラジ近郊) で逮捕され、フーシャング・モハンマド・アバディ (Hooshang Mohammad-Abadi) はカラジ近くのファルディスで逮捕された。全員 2005 年 12 月 7 日に保釈されたが、どうやら彼らには正式な罪状は伝えられなかったようだ。

別のバハーイー信者の良心の囚人、ダビフラフ・マフラミ (Dhabihllah Mahrami)<sup>24</sup>は、2005 年 12 月 15 日ヤズド刑務所で死亡した。家族には一応心臓発作で死んだと知らされ、遺体は引き渡され今は埋葬されている。しかしながら、ダビフラフは死ぬ少し前までは健康状態は良いと伝えられており、心臓病があるとも聞いていなかったが、刑務所内で相当の肉体労働を強いられていたのは明らかなので、多かれ少なかれそのことが死につながったのではないかと憂慮される。死の脅迫を受けたとも言われている。アムネスティは、彼の死についてイラン当局に対し、超法規的、恣意的、略式処刑に関する効果的予防と調査に関する国連原則に則った調査を要求し、彼の死に責任がある者は誰であっても司法の手に委ね、迅速で公平な裁判にかけられるべきであることを主張した。

バハーイー共同体はまた、土地や財産の没収に関して、たくさんの例を報告している。先述したような保釈のために多額の保釈金を要求され、多くの場合、財産証書や営業許可証などを追加担保として差し出さなければならず、結果、更なる財産没収やバハーイーの商業権が剥奪される恐れがある。

若いバハーイー信者はまた、大学教育を受ける平等な権利も拒否されている。ここ何十年もの間、信者の学生はより高い教育へのアクセスを拒否され続けているが、それは当局が、イスラム教または認可された他の 3 つの宗教のうち 1 つに対して忠誠を誓うよう、応募者に要求しているからである。この要求事項はすでに無くなったものの、2005 年 8 月には大学入試を受けた大多数のバハーイー教信者が、イスラム教徒であると示されていたことを、解答用紙上に発見している。彼らはこのやり方に抗議している。似たような事件が起こったのは 2004 年で、入試において信仰を明らかにするという要求事項が無くなった最初の年である。誤った信仰を解答用紙に示されることは訂正されたものの、800 人の合格者のうち最終的に入学を許可されたのは、たった 10 人である。この 10 人は、他のバハーイー信者仲間が排斥されたことに抗議し、入学を拒否した。

### 3. 人権擁護活動家

「人権擁護活動家 (HRD)」は、個人または集団で人権の推進・擁護の活動をする男性・女性である。様々な分野での人権擁護活動家の仕事は、国際人権法に基づいている。この仕事は包括されているが制限はなく、真実と公正を探し、規則や法を強化し、政府の責任を増加する。またジェンダー、性別、人種の平等、さらに子ども、少数民族、難民、その他の弱いグループの権利を促進する。イランにおける人権擁護活動家の強

<sup>24</sup> Dhabihullah Mahrami は背教の罪で 10 年間、刑務所で過ごした。彼の死刑判決は、1999 年の投獄中に減刑された。彼のケースについての詳細は、イラン：Dhabihullah Mahrami・良心の囚人 (AI インデックス MDE13/034/1996)、イラン：バハーイーの良心の囚人の死についての調査 (AI インデックス 13/004/2006) 参照。

いコミュニティとして、男女ともにジャーナリスト、弁護士、労働組合員、団体のメンバー、NGO、少数民族や子ども・女性・その他の権利を促進・保護する職業団体がある。

イランの人権擁護活動家は業務上、深刻な規制を受けている。イラン法では、表現や結社の自由に大幅な規制をかけており、人権擁護活動家はしばしば 様々な形のいやがらせによる彼らの業務への報復、脅迫、襲撃、拘禁、投獄、拷問などを受けることがある。多くの人は自国から出国できず、旅行の禁止を課せられている。ノーベル平和賞の受賞者であるシリン・エバディ (Shirin Ebadi) が運営する人権擁護センターといった、人権組織等の独立 NGO の登録過程は複雑で、さらに頻繁に認可を拒否されるため、NGO は強制閉鎖の危険に晒され続けている。海外の財政援助を受けるリスクとしては、接触を持ったり支援をしたりすることで「敵対する海外組織」や「スパイ行為」の罪になる恐れがある。例えば 2006 年 11 月、内務省は「体制転覆目的の国内外の問題のある団体」から資金提供を受けていたり、ハタミ前大統領の事務所から支援を受けていると言われる NGO のリストを編纂していると述べた。また内務省は、彼らの活動を規制する準備ができていても語っている。<sup>25</sup>

### 3.1 ジャーナリスト

2005 年 10 月、意見を平和的に表現した人びとを罰するために使われ、あいまいな言葉で述べられた規制を含む報道規制違反を裁く報道裁判所が再導入された<sup>26</sup>。彼らは 3 人の裁判官による陪審員と裁判官が選んだ陪審員団から構成されている。一部のジャーナリスト組織は、この陪審員団の構成を批判した。2005 年 4 月初旬、マジュレスは報道組合の職員やその他の市民社会の代表者を包括する報道裁判所の陪審員団が要求する法律を、一時停止した。報道裁判所の再導入の後、多くのジャーナリストや新聞の件が調査され始め、実刑判決を一時停止するケースも出てきた

また、少なくとも 10 人のジャーナリストが情報省と情報省に呼ばれ、アフマディネジャード大統領の政府を非難したり、慎重を期するイランの核開発問題について書いたりしないよう、注意を受けたと報告された。2006 年 1 月、イラン学生ニュース社 (ISNA) とイラン労働者ニュース社 (ILNA) も、情報省や通信省、イスラムの文化・指導に「調整」されていない学生やその他の政治活動家についての報道をしないように「指示」されたといわれている。当局は広範囲に及ぶウェブサイトへのアクセスを禁止するインターネットフィルタも増やしている。2005 年 12 月、国家最高安全保障会議 (SNSC) は、ドバイに拠点のある独立テレビ衛星放送局のサバ TV (前出のマジュレス広報官、ホジャットレスラム・バルモスレミン・メフディ・カルビ Hojjatoleslam val Moslemin Mehdi Karroubi が設立した) は違法であると言及した。夏に開設されると発表されてきたこの局は、SNSC に対する苦情により 2005 年 12 月 26 日に開設が遅れることが決定した。この規制は、イラン国内での独立したラジオ局とテレビ局の事業を禁止するものである。

良心の囚人であるアクバル・ガンジ (Akbar Ganji) は、1990 年代の「連続殺人」と言われる知識人やジャーナリストが殺害された事件の、未だに罰せられていない政府関係者を暴露した調査報告官であるが、彼はいまだに 6 年の禁固刑を受けている。彼は 2000 年 4 月に「国家安全への攻撃」と「イスラムシステムに反する主張」をしたことで、10 年の禁固刑 (後に上告によって 6 ヶ月に減刑された) の判決を受けた。2001 年 7

<sup>25</sup> アレフ・ニュース (Aref News) 2006 年 1 月 9 日

<sup>26</sup> 表現の自由を規制する法律の詳細は、イラン: 表現と結社の自由保護が欠落している法体制 (AI インデックス 13/045/2001) 参照

月、彼は「国家の治安を脅かす目的で、機密情報を収集した」ことと「プロパガンダを広めた」ことで再度裁判にかけられ、6年の禁固刑が宣告された。

刑務所の外で行われた、単独の医療行為が拒否されていることに抗議するハンガーストライキの後、アムネスティが行ったものを含む非常に多くの抗議が国内外で起こり、2005年7月、彼は治療のため仮放免された。しかし2005年9月に再び刑務所に戻り、独房に入れられた。そして彼は刑務所に戻る前の入院中も治安部隊によって殴打されていた、と2005年10月に面会に訪れた妻に知らせたという。

- ・ マスード・バスタニ(Masoud Bastani ジャーナリスト、アクバル・ガンジの件について多くの著作がある)は、2005年7月25日、アクバル・ガンジが治療を受けている病院の外でデモの取材している時に、他の14人と共に拘禁された<sup>27</sup>。2005年8月6日にエビン刑務所から釈放されたが、一週間後に再拘禁され、通常は非政治犯を入れるアラク刑務所に入れられた。2005年、彼は名誉棄損の罪で6ヶ月の禁固刑と70回の鞭打ち刑、5年のジャーナリストとしての活動を禁止する判決を受けた。原告が申立を取り下げているにもかかわらず行われたこの2005年の再逮捕は、彼を残りの刑に服させるための方法だろうと言われている。イラン法によると彼は釈放されるべきなのだが、地方検察官(この場合だと前裁判官)は釈放命令を拒否したという。マスード・バスタニの妻によると、検察官は彼に後悔と減刑を嘆願する手紙を書くように要求したという。彼女の妻はまた、彼が監房の中で非政治犯から治療を必要とするような暴力を受けていたと伝えた。しかし彼の治療は拒否されたという。彼は1ヶ月の条件付で2005年10月に釈放されたが、2005年11月5日に再び刑務所に戻された。2006年1月7日付けのルーズ紙に載った、彼の妻を介した刑務所からの短いメッセージ中で、マスードは恩赦を嘆願するような準備はしていないと語っている。「刑務所内での生活は困難だが、私は自分が関わっていない罪に対する恩赦願いはしないつもりだ。自由は甘美だ。しかしその価値はもっと重要だ。」と彼は言ったと伝えられている。
- ・ ウェブログガーのサヤド・アマド・サヤド・シグルチ(Sayed Ahmad Sayed Sigarchi)は2005年10月にタブリーズ刑務所で30回の鞭打ち刑を受けたと伝えられた。彼は2005年6月29日に、彼が2003年に立ち上げたウェブログに関連してタブリーズの革命裁判所で「指導者と上級官僚への侮辱」と「システムに対するプロパガンダ」の罪により6ヶ月の禁固刑と鞭打ち刑(後に上告で3ヶ月の禁固と鞭打ち刑に減刑された)の判決を受けた。裁判前の4ヶ月間、家族や弁護士との面会を拒否され、監房で殴打されたと彼が話したのが報告されている。<sup>28</sup>
- ・ アマド・レザ・シリ(Ahmad Reza Shiri マシャードのウェブログガー)は2006年1月8日に、選挙のボイコットを呼びかける2004年の彼のブログ内の記事に関して、3年の執行猶予付き判決を受けた。彼は2004年2月、21日間を刑務所内で過ごし、2005年6月に1年の執行猶予付き刑を受けた。彼のコンピューターは没収されブログも閉鎖されたが、彼はまた間もなく立ち上げた。アマドは、情報省が別の判決を導くような、新たな容疑の再審議を要求したと語っている。これは彼が海外のラジオ局の取材を受けたことを指している。<sup>29</sup>

<sup>27</sup> イラン：死の危険を伴うハンガーストライキ (AI インデックス MDE13/045/2005) 参照。

<sup>28</sup> Tebriznews2006年1月26日

<sup>29</sup> 国境なき記者団 イラン：ブロガーが三年の執行猶予を受けたもの。http://www.rsf.org/article.php3?id\_article=16207  
Amnesty International February 2006

- ・ アラシュ・シガルチ(**Arash Sigarchi** ウェブライター、前出の新聞 Gilan-e Emrooz の編集者)はラジオ・ファルダのインタビューを受けたことによる「敵(米国)との協調」、「最高指導者の侮辱」、「システムへのプロパガンダ」によって2006年1月に3年以上の禁固刑の判決を受けた。彼は2004年10月から始まった、相次ぐブロガーの逮捕を非難し2005年1月に二ヶ月間拘留され、革命裁判所から14年の禁固刑の判決を受けた。しかし上告し、保釈された。上訴法廷は2005年1月、3年に減刑をしたといわれているが、それは2006年1月22日まで彼には知らされなかった。2006年1月26日に彼が判決のコピーを要求するため上訴法廷に出廷した時に拘束され、処罰を開始するためにラシュト刑務所に移送された。

### 3.2 弁護士

ナセール・ザラフシャン(**Nasser Zarafshan** 弁護士、1998年情報省によって殺された有識者やジャーナリストの家族代表)は、この「連続殺人」事件における2002年3月の不正裁判の後、「連続殺人」に関する「極秘情報の暴露」と銃器の不法所持による5年の刑、アルコール所持による鞭打ち刑を宣告され、良心の囚人として服役中である。アムネ스티は、武器やアルコールは信用を落とすため彼の事務所には掛けられた罫であり、彼に対するこのケースは政治的で、刑事免責について取材を続けている他の人権擁護活動家の気勢をそぐのが目的であると見ている。

ナセールは治療行為の拒否に抗議をする、ハンガーストライキに入った。2005年7月と11月に行われたアムネ스티やその他の国際行動に続き、彼は腎臓結石の治療のため刑務所を出ることが許された。

アブドルファッター・ソルタニ(**Abdolfattah Soltani** 弁護士、人権擁護センターの共同設立者)は2005年7月に拘禁された。彼はスパイとして告発された彼の顧客を守る仕事に関連して「機密国家情報」の公開を訴えた。逮捕前、彼もアクバル・ガンジとザーラ・カゼミの家族(後出参照)を擁護する弁護団のメンバーだった。彼は2005年9月に妻との面会が許可されるまで6週間以上、隔離拘禁されていた。2005年12月、審理前拘禁の間、彼は弁護士と会うことが許されておらず、その期間は3ヶ月以上にも渡った。

### 3.3 労働組合員

- ・ ボルハン・ディヴァンガール(**Borhan Divangar** 上記2.1.2参照)も2005年11月9日頃にサッケズの革命裁判所で2004年メーデーの平和デモへの参加に関する罪で2年の禁固刑の判決を受けた。その後、彼と6人の労働組合活動家が逮捕されたが、後に釈放された。

彼と同時に逮捕された他の6人は同じような罪状で、うち2人は無罪だった。労働組合組織委員会の広報官であるマフムード・サレヒ(**Mahmoud Salehi**)は、サッケズのベーカリー労働者組合の元委員長でもあり、また労働団体を結成する調整委員会の共同設立者でもあった。彼は5年の禁固刑と3年のゴーヴェーの街からの追放を宣告された。裁判で、検察官は彼に対して労働組合活動の証拠を指摘し、メーデーの少し前の2004年4月の国際自由労働組合連合(ICFTU)との会合についても言及した。また彼は2005年8月4日に行われたクルド系イラン人のデモの間にも約1時間拘留され、いかなるデモにも参加しないよう注意を受けた。

- ・ ジャラル・ホセイニ(**Jalal Hosseini**) サッケズのベーカリー労働者組合のメンバーで、3年の禁固刑の判決を受けた。イラン作家協会のメンバーのモフセン・ハキミ(**Mohsen Hakimi**)、サッケズのベーカ

リー労働者組合のメンバーのモハンマド・アブディプール (Mohammad Abdipour) は、どちらも2年の刑の判決を受けた。全員、イラン刑法<sup>30</sup>の610条による、2004年のメーデーに参加した罪で拘留されたといわれている。その後、違法なクルド人組織イランクルディスタン革命的労働者機構 (KOMARA) の一員であるとの罪 (死刑の可能性もある) が科せられた。裁判はしばしば延期されたが、この罪状は無罪となった。2006年1月、保釈金を支払って全員保釈されたが、控訴審は係属中であるという。

- 2005年12月22日、警察はテヘラン近郊のバス会社 (Sharekat-e Vahed<sup>31</sup>) の労働組合のリーダー12人を、彼らの家で逮捕した。このうちの4人はすぐに釈放された。さらに2005年12月25日、テヘランで彼らの同僚の釈放を求めるバスストライキの最中に、組合員が逮捕された。先に逮捕された人びとは、マンスール・オサヌル (Mansour Ossanlu) を除き、数日後に釈放された。マンスールは2006年1月末の時点で、弁護士との面会も許されず、追放された反対派勢力と接触を持ち武力反乱を起こす可能性の罪 (死刑執行ができる) によって、まだエビン刑務所に拘留されたままである。
- マンスール・ハヤト・ギャイビ (Mansour Hayat Ghaybi)、エブラヒム・マダディ (Ebrahim Mdadi)、レザ・タラジ (Reza Tarazi)、ゴラムレザ・マルザイ (Gholamreza Mirza' i)、アバス・ナジャナド・コウヒ (Abbas Najanad Kouhi)、アリ・ザド・ホセイン (Ali Zad Hossein) を含む7人の組合員は、2006年1月1日にテヘランの革命裁判所に公安の容疑で召喚された。しかし他の組合員が裁判所の外で抗議をしたため、彼らの裁判は延期された。2006年1月7日、バス会社の労働者が別のストライキを行っていた時に、5人のバスの運転手が逮捕されたという。彼らは最近解放された。また組合幹部や多くのメンバーが、2006年1月28日に計画されていたストライキが行われる前日に集団逮捕された。2006年2月初旬、多くの人びとが明らかに家族や弁護士と面会できないまま、テヘランのエビン刑務所に拘留されていると思われる。

#### 4. 残虐、非人道的で品位を傷つける罰を含む拷問

ここ数年、情報や自白を引き出すのを目的として、イランでは拷問を組織的に行っている。独居拘禁、捜査段階が終了するまで被拘禁者が弁護士にアクセスできないことが可能な法律や手続きにより、また司法のアクセスがない非公式団体が経営する拘禁施設や同様の施設の存在により、拷問は容易となっている。

2005年7月、当局は司法当局によって作成された報告書を発表した。これは刑務所や拘禁施設の囚人と被拘禁者への拷問や虐待を含む人権侵害について、とりわけ同等の拘禁施設における問題の詳細を記したものである。しかしこの報告書はすでに明らかになった問題については対処する措置が採られたことを再確認しているが、このような措置の規模や有効性についての情報はない。アムネスティは被拘禁者への拷問や虐待についての新たな報告を入手しており、拷問や虐待がイランの刑務所や拘禁施設で繰り返し行われていることに懸念を表明している。また政治犯へ圧力をかけるために行われる治療の拒否も、頻発している。(上記のアクバル・ガンジとナセル・ザラフシャンの項を参照。)

<sup>30</sup> 610条に明記されている：2人もしくはそれ以上が集まり、国内外の治安に対して罪を犯したり、その準備をしたりした場合、彼らがMohareb(神への敵意)でなくても、2年から5年の刑が下される。

<sup>31</sup> テヘランのバス労働者を代表する組合は1979年のイスラム革命後、禁止された。その後2004年に、合法的ではないが再開した。

加えて、イランの法律は鞭打ちや切断など残虐、非人道的で品位を傷つける処罰の執行を可能にしている。

#### 4.1 アムネスティが把握している、アフマディネジャード大統領就任以降の拷問事件

- ・ 2005年8月、故・大アヤトラ・モハマト・ホセイン・シラジ (**Grand Ayatollah Mohammad Shirazi**) の家族と弟子達から成る約40人のグループがゴムのサヤデフ・マソウメフ (**Sayedeh Ma'soumeh**) 聖堂にある大アヤトラの墓参をしようとしたところ、治安部隊によって襲撃された。そのグループは6人の男性と子どもの他ほとんどが女性だったが、逮捕前におそらく情報省の役員と思われる人びとに、ケーブルや棒で殴られた。後日、彼らは全員釈放されたが、数人が監禁地で拷問や虐待を受けた。アミラ・シラジ (**Amirah Shirazi**) を含む少なくとも2人が、足の骨折や重度の打撲で、早急な病院での治療が必要とされている。ライハナ・シラジ (**Rayhana Shirazi** 11歳) は首を絞められたことによる重度の打撲を負っており、さらに彼は治安部隊のトラックに押し込められる前に、約100メートル地面を引きずられたと言っている。この残虐行為やいわれのない攻撃に対する調査は全くされておらず、懲罰や法の裁きを受けるなど関係者の責任も問われていない。
- ・ 9月、アレズー・シアビ・シャリヴァール (**Arezoo Siabi Sharivar** 写真家) が、1988年の数千人の政治犯が処刑された「刑務所大虐殺」の追悼式典で14人以上の女性達と一緒に逮捕された。そして彼女を逮捕した治安部の関係者から殴る・蹴るの暴行を受け続けたとアムネスティに語った。彼女は「<私の尋問者>は、質問をすることだけでは私から何の自白も引き出せないと気づき、私に手錠をはめ、つま先が地面に付かないようにして天井の鉄の棒に吊り下げた。そして非常に硬いワイヤーケーブルの鞭で私を打ち始めた。痛みで息ができないくらい激しく私を打った。2人が絶えず打ち続け、その合間に言葉による虐待やセクシャル・ハラスメントを受けた。彼らは私の我慢が限界に達する深夜まで打ち続けた。」
- ・ アムネスティがアミルという名前のみ確認しているシーラーズから来た男性は、2004年にホモセクシャル活動による罪で100回の鞭打ち刑の判決を受けた。そして彼は拷問や嫌がらせ、死の脅迫を治安部隊から受けたと言った。

アラブ人活動家ザハラ・ナセール・トルフィ (**Zahra Nasser-Torfi** 2.1.1を参照) は2005年11月に拘禁され拷問を受けたと報告されている。彼女は激しく打たれ、処刑と強かん脅迫を受けたと主張した。

クルド人権擁護活動家のロヤ・トロウイ (**Roya Toloui** 2.1.2参照) も拘禁されていた間、殴打を含む拷問と虐待を受けたと主張した。「8月6日の夜、<1人の役人>から個人的に、言葉で言い表せないような残虐な方法で拷問を受けた」と彼女は述べた。「彼らは強制的に自白をさせようとした。私が<私は弁護士立会の下でのみ話をする>と書いたところ、彼らは私をあざ笑った。私は<これは人権侵害であり、私には弁護士に面会する権利がある>とも書いた。すると彼らは我慢できなくなり、私の子どもたちを連れて来させ、私の目の前で生きたまま焼き殺すと、私を脅迫した。」さらに彼女は「私の経験を話すことは、とても難しい・・・私は女性運動の活動をしている女性活動家達が逮捕された際の拷問の恐怖について心配をしている。しかし私は自分達の権利について戦っている全イラン女性へ、彼らの努力は勇気を持って<続けられるべき>であるというメッセージを送りたい。」と付け加えた。<sup>32</sup>

<sup>32</sup> ラジオ・ファルダ(Radio Farda)によるインタビュー 2006年1月27日

この時期、鞭打ち刑は裁判所で宣告され続け、頻繁に導入された。例えば 2005 年 12 月 28 日、3 人の男性が、ジャロム高等裁判所 102 号で飲酒と常軌を逸した振る舞いの有罪判決を受けた後、ジャロムのヴァラヤット広場で公開鞭打ちの刑に処されたとデイリーエテマド紙が報じた。

切断の刑も執行されている。2005 年 11 月、フーゼスターンにあるイランのテレビ局は、最高裁で刑が確定された後、アフズズ市にあるカロウン刑務所でアバス・G(Abbas G)の左足に切断刑が執行されたとの発表があったと報じた。地元の司法省の役人が「武装して強盗したと市民に恐怖を与えた罪で、彼の右手と左足を公開切断するよう、マーシャルの革命裁判所で判決を受けた」と報道された<sup>33</sup>。2005 年 11 月 28 日、ISNA はアデル(Adel)という名前の左足切断の刑が執行されたと報道した。彼はマーシャルの革命裁判所で武装強盗の罪を宣告された後、最高裁第 32 支部で確定され、カロウン刑務所にいた。2006 年 1 月 2 日、イラン新聞は、氏名のわからない 32 歳の男性が、窃盗の罪で 3 年半の投獄と 40 回の鞭打ち、手の切断の刑が下されたと報道した。

#### 4.2 ザーラ・カザミ *Zahara Kazemi*—彼女の殺人犯の刑事免責

2003 年 6 月 23 日、カナダ系イラン人の写真家ザーラ・カゼミ (53 歳) は、エビン刑務所の外で写真を撮った罪で逮捕された。政府の調査によると彼女は頭蓋骨の強打により、テヘランにある Baghiyetollah (または Baghiyata'zam) 病院で監視された状態の下、死亡したという。

2005 年 11 月 16 日、控訴裁判の評決が発表され、情報省の役人でザーラ・カゼミの死に関係があるとされていたモハマド・レザ・アグフダム(Mohammad Reza Aghdam)の無罪が支持された。彼は 2003 年 10 月 2 日、裁判にかけられたが、2004 年 7 月 24 日無罪になった。裁判でカゼミの家族の代理弁護士は、被告人になっていない、無罪を主張している司法省の役人に死の責任があると主張した。モハマド・レザ・アグフダムの弁護士は取材に対し、司法当局は 2003 年 7 月の拘束時の死の調査には欠陥があると結論を下し、再調査のために一般・革命裁判所に審議を差し戻す命令を出したと語った。

アムネ스티はこの再調査を歓迎する。そしてこれが完全に独立したものであることを要請する。

この調査は下記のような捜査により強化されるべきである：

- ・ テヘランの主任検察部のメンバーを含む、証人を集めること。
- ・ 書類の強制的に公開をすること。
- ・ 嫌がらせや脅迫から証人を守る保証をすること。
- ・ 将来的に、同様の人権侵害の再発防止メカニズムを設置すること。

#### 4.3 医療行為の拒否

不正裁判の後、多くの良心の囚人や政治犯が、治療を拒否されていると報告されている。宣告された罪や刑務所内でのふるまいを認識する、特別な罰と言えるかもしれない。

例

- ・ メフルダッド・ロフラサビ(Mehrdad Lohrasabi 1999 年 7 月の学生デモ「18 Tir」の最中に逮捕された)

<sup>33</sup> フーゼスタンテレビ (Khuzestan TV) 2005 年 11 月 22 日

は元々革命裁判所の不公正な裁判で死刑判決を受け、その後 15 年の刑に減刑され、現在はレジャイ刑務所にいる。2005 年 11 月 1 日付けの獄中からの手紙で「最近、私は非常に具合が悪く、左膝や肺、歯茎と歯（壊血病）、小脳の左側で急速に大きくなっている腫瘍（非常に有害で癌性であると思われる）など様々な症状を患っている。私は刑務所長に医療休暇を申請したが、彼らは治療許可を頭から拒否した」と彼は語った。

- ・ ハレッド・ハルダニ(**Khaled Hardani**)<sup>34</sup>は 2001 年 1 月に 30 人乗り航空機のハイジャックに加担したとして、死刑判決を受けた。2005 年 1 月 19 日、司法省長は執行停止を発表したが、不明確な法状況のまま 彼はその前日に処刑される予定だった。彼はハイジャック時に胸の上部に負った外傷が原因で、重度の皮膚伝染病に苦しんでいると言われる。彼は何度も手術を受けたが、刑務所医務官は刑務所外で専門家の治療を受けるよう勧告している。しかし、これは現在まで認められていない。2005 年 10 月 24 日、彼は妻と子どもが面会に来た時、彼らの見ている前で刑務所の護衛官に殴られたと報告されている。
- ・ ビナ・ダラブザンド(**Bina Darabzand** イラン民主党 (Hezbe Demokrat-e Iran) 創設メンバー)は 2004 年 8 月 17 日、テヘランにある国連事務所の外で、政治犯のより良い処遇を求める平和デモを行っている時に逮捕され、3 年半の禁固刑と、5 年間の市民権の剥奪、50 回の鞭打ち刑の判決を受けた。良心の囚人である彼は、2005 年 10 月にハレッド・ハルダニが殴られているのを止めようとしたと報告されている（上記参照）。その後二人とも面会者に会えぬまま、面会エリアから連れ去られた。ビナ・ダラブザンドも急を要する心臓病、肝臓・口腔・目などの病気があると言う。
- ・ ベフルーズ・ジャヴィッド・テヘラニ(**Behrooz Javid Tehrani**)はビナ・ダラブザンド（上記）と同時期に逮捕され、7 年の禁固刑と 74 回の鞭打ち刑（後に抗告審判で 4 年の禁固と 7 回の鞭打ちに減刑された）の判決を受けた。彼は 2005 年 10 月に、逮捕後に彼が拘禁されているエビン刑務所での深刻な拷問について外国ラジオ（ラジオ・ファルダ）のインタビューを受けたとして、家族との面会を拒否されているという。彼は現在、失明しており、また極めて重い脳の腫瘍と診断されているという。
- ・ アルザング・ダヴーディ(**Arzhang Davoodi** 執筆家、詩人、テヘランの文化教育センター長)は、イラン当局から批判されている「禁じられたイラン」と言われる違法なテレビのドキュメンタリーフィルムの製作を秘密裏に支援したとして、2005 年 10 月逮捕された。彼は革命軍によって運営されている拘禁施設の独房に 3 ヶ月以上入れられ、肩甲骨骨折、左目出血、難聴、顎や歯の骨折などの後遺症が残るひどい拷問を受けた。彼は後にエビン刑務所、レジャイ シャハール刑務所に移され、2005 年 9 月には家族の住む場所から非常に遠い、沿岸部のバンドルアッパーズ刑務所に移されたという。

刑務所からの連絡は 2005 年 7 月からされており、アハザング・ダヴーディは彼が 15 年の禁固刑、70 回の鞭打ち刑、5 年の自宅監禁の判決を受け、その後上告で刑が確定したと語った。彼はイランの自由運動を設立・指導、非宗教的と言われる本の著作、刑務所内の政治犯や国を弱体化させる政治活動家の組織、ドキュメンタリーフィルム「禁じられたイラン」の作成に協力した罪などを宣告されていると言う。さらに彼は「政府には特別口座がある。これは彼らの愛する者が治療を受けるために、囚人の家族に要求される保証金の口

<sup>34</sup> AI インデックス MDE13/003/2005 参照。

座である。この資金の可能性が裏づけられているにもかかわらず、刑務所職員は私が今すぐ必要としている治療行為を受けるのを何度も拒否した。」と語っている。

## 5.死刑

アムネスティは2005年7月から2006年1月まで、69件の死刑があったことを把握している。このうち2例は処刑された時点で18歳未満の未成年者だったという。また同時期に、30件以上の死刑判決があったことを把握している。この中には犯行時18歳未満の被告人が少なくとも6人いる。実際の数字はもっと多いだろう。「地上の腐敗」といったあいまいな表現の政治的犯罪や、合意に基づいた成人異性間の私的な性的関係や飲酒などの犯罪、強かん・殺人や麻薬の不法取引で死刑が科されている。

### 5.1 未成年者や子どもの犯罪者の処刑

- 2005年7月13日、アリ・サファプール・ラジャビ (**Ali Safarpur Rajabi**) 20歳はハミッド・エンシャディ(**Hamid Enshadi**)を殺害した罪で、ポルドフタールで警察官により絞首刑になった。アムネスティは2002年2月、彼が17歳の時に確定した死刑判決を記録していた。彼が罪を犯したのは16歳の時と思われる。
- 2005年7月19日、アヤズ・マーホニ(**Ayaz Marhoni**)18歳、マハモッド・アスリ(**Mahmoud Asgri**) 未成年、はマシュハドの北東部にある町で公開絞首刑になった。報道によると彼らは13歳の時、性的暴行による有罪判決を受け、14ヶ月間 拘留されていた。処刑に先立って二人は、飲酒・治安妨害・窃盗の罪でも228回の鞭打ち刑を受けていた。
- 2005年9月、強かんの有罪判決を受けた22歳のイラン人男性が、ファールス地方南部で公開絞首刑になった。デイリーエテマド紙によると、彼は2000年に死刑判決を受けており、犯行時、18歳未満だったと思われる。
- 2005年12月、ロスタム・タジク (**Rostam Tajik** アフガン国籍の20歳) は、16歳の時に女性を殺したとする有罪判決によって、エスファハン市の公園で公開処刑された。彼はキサース (**qisas**、被害者遺族により懲罰が指示される) の判決を受けていた。12月9日、国連人権委員会の超法規的、即決または恣意的処刑に関する特別報告者フィリップ・アルストンはイラン当局に死刑判決を出さないように「現在、事実上世界のすべての国が、子どもの時に犯した罪に対しての死刑判決を明確に放棄している。イランの取り組みは絶対に容認できない。こういった死刑判決を停止する責任は論争の余地が無いだけでなく、イラン政府がこの慣習の停止を自身で宣言すべきことなのである」と呼びかけた。
- 2006年1月3日、18歳のナザニン (**Nazanin**) は刑事裁判で殺人による死刑判決を受けた。その後の報道によると彼女は2005年3月、カラジの公園で彼女と彼女の16歳の姪を強かんしようとした3人の男のうち1人を刺殺したという。その時彼女は17歳だった。彼女の判決は、高等裁判所に控訴されているが、もし判決が変わらない場合、さらに最高裁に上告される。
- 19歳のデララ・ダラビ (**Delara Darabi**) は、17歳の時に犯した殺人罪により、ラシュト市の裁判所で

死刑判決を受けた。彼女は殺人を否認し弁護士が判決に抗議したにもかかわらず、2006年1月に始まった最高裁でも判決は変わらなかった。

ペルシャ語のニュースサービスアフタブはデララ・ダラビと19歳の男性（アミル・ホセイン）が強盗目的で家に押し入り、さらにそこに住んでいた女性を殺害したと報道した。デララ・ダラビは当初、殺人を認めていたが、その後自白を撤回し、彼女はアミル・ホセインに殺人罪の肩代わりをしてほしいと言われたのだと述べた。アミルは彼女が犯行時18歳以下だったので、死刑判決は下らないだろうと考えたのである。彼女は強盗時、鎮静剤を服用していたと述べている。

約4年間、イラン当局は犯罪時18歳以下だった被疑者への死刑判決を禁止する法律について検討をしてきた。2005年10月11日、法務大臣のジャマル・カリミラッド（Jamal Karimirad イラン司法制度の広報官として活動）はISNAの話として、もし法案がマジジュレスを通過したら、もはや18歳以下の被疑者に対して死刑判決は下されなくなるだろう報告した。しかし彼は、「キサース」は私的なものであり公式に記載するものではないと述べ、死刑執行が適応される「キサース」と他の罪を区別していた。しかし彼は、この法案は同時に「キサース」の問題も解決の方向に進むだろうとも述べた。

彼の発言からもわかるように現在検討中のイランに早急に必要とされる法案は、子どもや未成年の被疑者を処刑しないとする国際人権義務を批准するためには、はるかに足りない。イランにおける未成年者や年少者犯罪の死刑執行の大多数は、個人が殺人罪を科す「キサース」にあたるケースであり、死刑が適用される他の殺人罪のケースと区別されるので、イラン当局には受け入れられない。すべてのイラン国民に対し、18歳未満の時点で行われた犯罪については、殺人を含むいかなる罪においても死刑判決が下されないという保証がされる法律が早急に必要とされている。

## 5.2 合意に基づく成人の性的関係における死刑

2005年10月、ソグラ（Soghra）という女性に、姦通の罪で石打による死刑判決が下された。2002年12月に司法当局から石打の刑を停止する通達が出されていたにもかかわらずである。アムネスティは、まだ執行されていないが、刑の停止が発表されてからも石打の判決を科したいいくつかの判例を記録している。2005年10月、同組織はイラン当局に対してイラン国内での石打の明確な位置づけの説明を求める手紙を出したが、2006年1月現在まだ回答を受け取っていない。

2005年11月、ケイハン新聞の報道によると、モハタール（Mokhtar N 24歳）、アリ（Ali A 25歳）という2人の男性が lavat（男色）の罪によってゴルガン市にあるシャヒド・バホナル広場で公開処刑された。報告で二人の男性は上記の罪の他に、誘拐、刺殺、強かんも犯していることが明らかになった。アムネスティは、この二人の男性が処刑される明確な罪状についてイラン当局の説明を求めたが、2006年2月上旬現在、まだ回答を受け取っていない。

## 5.3 政治的犯罪における死刑

この時期、たいてい革命裁判所においての不公正な裁判の後に、政治的犯罪というあいまいな罪状の囚人の

処刑がたいは革命裁判所前で行われた。不公正な裁判の後に有罪と宣告された多数の政治囚も、執行の危機にある。

- ・ エスマイル・モハマッディ(**Esma'il Mohammadi**)は 2005 年 3 月にオロウミエフ刑務所で処刑された。彼の家族は、彼の面会に行ったときに初めて、処刑が行われたことを知った。彼らは彼の洋服と遺品を受け取ったが、遺体は無かった。彼はオロウミエフの革命裁判所 1 号での不正裁判の後、2003 年 7 月に死刑判決を受けた。彼は「イスラム政権に対する武装闘争」と「非合法組織のメンバー」として有罪になったが、その活動の根幹は Komala (クルド反体制グループ) であったとみられる。
- ・
- ・ 2005 年 9 月 17 日、ジャセム・マロウフ(**Jassem Marouf**、または Abbas Khosreji インド系アラブ人) は mohareb (神への戦い) の判決を受け、アハヴァーズで処刑された。
- ・ アブ・バカール・ミルザイ・カデリ (**Abu Baker Mirza'I Qaderi**)、オスマン・ミルザイ・カデリ (**Othman Mirza'I Qaderi**)、カデリ・アマディ (**Qader Ahmadi**) は、2005 年 9 月に KDPI に加担した罪を宣告されて以来、執行の危険が迫っているという。2006 年 1 月現在、彼らが処刑された事実はまだ無い。<sup>35</sup>
- ・ シェイク・アバス・アボウ・アリ・ザリム(**Sheikh Abas Abou Ali Zalim** 41 歳、インド系アラブ人) は、2005 年 11 月下旬から 12 月初旬にかけて、アハヴァーズ市のセピダール刑務所で絞首刑にされた。彼の家族は 2005 年 12 月 5 日頃、遺体を引き取った。彼は 4 月の騒乱に巻き込まれ、2005 年 9 月頃から拘留され、フザスタール地方での騒乱を起こしたという罪状の判決を受け、処刑されたとみられる。
- ・ アジス・クハラカニ(**Aziz Khalakani** クルド人) は、治安部隊員を殺害した罪でオロウミエフ刑務所に 9 年拘留された後、2005 年 12 月 18 日処刑された。同じ時期に逮捕されたマスード・ショケフ(**Masoud Shokeh**)は 2 週間後の 2006 年 1 月 1 日に処刑された。

#### 5.4 飲酒における処刑

11 月、カリム・ファヒミ(**Karim Fahimi** または Karim Shalo、32 歳、既婚、小さい子どもが二人)は、死刑判決の後、銃殺刑の危険が迫っているといわれている。当初 2005 年 6 月に下された死刑判決は、後に最高裁で確定された。彼は 4 回の飲酒の罪が科せられていた。この飲酒は約 4 年前に解雇された後、常習化したものである。イラン刑法 174 条には、人を酔わせるような物を摂取した者には 100 回の鞭打ち刑が科せられると表記されている。また 176 条 3 項には、こういった犯罪には死刑が執行されるとも表記されている。

カリム・ファヒミは、ある夜 酔って家に帰り、彼の家族が警察に助けを求めて以来、逮捕されていると報告されている。彼の家族が「もし私達が、投獄・死刑に代わる治療行為を知っていたなら、私達は決して政府の助けを求めたりはしなかつたろう」と言っている。

### 6. アムネスティの懸念と国際人権基準

#### 6.1 良心の囚人の投獄

---

<sup>35</sup> アーエージェント・アクション AI インデックス MDE13/054/2005 の詳細を参照。

この時期、イランの各地では、ひどい暴力行為がおこっており、そのため、爆破行為、殺人、暴力行為を伴うデモへの参加などの犯罪行為で告訴された人びとを、法の下で裁くことは、政府の権利であり責任であるということをアムネスティは認識している。しかし、この報告書に記載されている多くの人びとは良心の囚人であり、政治的、宗教的、または自らの見解を平和的に表現したという理由だけで拘留されたり、投獄されたりしている。また出身民族や性別、言語の違いによる理由でも同じことが起きている。このような囚人はすべて、即刻、無条件に釈放されるべきである。このような拘束は、あいまいに文章化され、矛盾に満ちたイラン法によって、容易に行われている。イラン法では、市民的及び政治的権利に関する国際規約 (ICCPR) に記載されているように、国際的に認められている信条の自由、表現・結社の自由が制限されている。ところが、イランは ICCPR の締約国なのである。

## 6.2 子どもと大人を共に拘禁

イランでは子どもが大人と一緒に拘束され、時には拷問や虐待を受けることがあるということに対しても、アムネスティは懸念している。ICCPR も子どもの権利条約 (CRC) も、子どもは大人とは別々に拘留すべきだと要求しているが、この CRC についてもイランは締約国となっている。

## 6.3 政治犯に対する不公正な裁判

イランでの一般裁判所、革命裁判所、特別裁判所で行われる裁判は、もともと重要とされる ICCPR の 6 条 (死刑相当の場合) や 14 条で定められている公正裁判の国際基準を満たしていない。司法の独立は危うくなっており、弁護士 の独立性及び安全性も損なわれている。拘禁された人びとは、取調べが完全に終わったとみなされるまでは、弁護士に面会することも許されず、外部への連絡が取れないまま拘留期間が延長されている。同様の非公式な拘禁使節では、法の目が届かず、自白を得るために拷問や虐待が行われやすい状況になっている。<sup>36</sup>

## 6.4 少数派の権利の否定

イランでは、少数派に属する人びとの経済的、社会的、文化的な権利が侵害されていることを、アムネスティは懸念している。イランは経済的・社会的及び文化的権利に関する国際規約 (ICESCR) の締約国であると同時に、女子差別撤廃条約 (ICERD) も締約している。この協定は、少数派に対する差別を早急に禁止すること、また経済的、社会的、文化的権利における差別の撤廃にむけて力をつくすことを要求しているものであり、これらの権利の中には、職業選択の自由の権利、居住の権利、教育の権利、文化活動に平等に参加できる権利、公的サービスを受ける権利などが含まれる。少数派と多数派の違いは歴然としており、識字率、教育を受けること、適切な水の供給、公衆衛生や電気の供給などに大きな違いがあります。また、少数派をターゲットとした「不法な土地の没収」の報告もあり、これらはイランが国際的義務を果たしていないことを示している。

人種差別撤廃委員会は、2004 年の報告 14 項で「委員会は、ある少数派グループが直面した差別の報告に対し懸念をしている。その報告にはバハーイー教徒に関するものがあり、彼らはあきらかに権利を奪われている。協定締約国であるこの国の規定は、民族的、宗教的、どちらの点においてもあきらかに差別に満ちてい

<sup>36</sup> イランの法体制とイランの不正裁判についての詳述、イラン：表現と結社の自由保護の欠落 (AI インデックス MDE13/045/01) とイラン：不正裁判と政治犯の拘留 (AI インデックス MDE13/015/1992) を参照。

る。」と述べている。

経済的、文化的、社会的権利の委員会は、適当な居住の権利について規定している ISESCR の 11 条 (1) に関連して、こう述べている。「協議、正当な手続き、適切な代替家屋の保障もないまま、それまで住んでいた場所からの強制的な立ち退きは、禁止されている。」<sup>37</sup>また、自由権規約委員会 (HRC) は、ICCPR の 12 条 (3) に関連し「テリトリー内の自分が選んだ場所に居住する権利には、すべての国内強制移動からの保護が含まれている。それはテリトリー内の限定された場所への侵入・滞在も排除している。」<sup>38</sup>と述べている。

## 6.5 人権擁護活動家

アムネスティは、イランの人権擁護活動家への規制が行われていることに懸念をしている。ジャーナリスト、弁護士、労働組合員などが活動していますが、人権を推進・擁護するために、平和的活動を行った結果、人権侵害に遭っている。

人権擁護に関する国連宣言<sup>39</sup>では法的な拘束力はないものの、人権を守る権利の保護規定を強調している。これらは人権と基本的自由を促進し擁護する権利、基本的自由、人権侵害を受けた時に効果的な治療を受ける権利、人権侵害に対する平和的活動に参加する権利が含まれる。加盟国は人権擁護活動を行っている人びとを、その活動に対する暴力や脅迫、報復、事実上もしくは法律上の差別、圧力、制圧から守るために必要手段をとることを要求されている。

国連の弁護士の役割についての基本原理<sup>40</sup>は、法の専門家を保護する指針を示している。16 条では、弁護士は脅迫や妨害、いやがらせなどの不適切な干渉なしに仕事をするべきであり、自由に国内外を移動し、関わっている法的業務のことでの起訴、制裁や脅迫を受けるべきではないと述べている。23 条では、弁護士の表現・結社の自由（特に法や司法行政、人権擁護・推進について公開討論する際）の権利を保護されている。

労働組合を設立する権利、また労働組合に参加する権利は、国際法、ことに ICCPR の 22 条や ICESCR の 8 条で主に規定されている。イランは国際労働機関 (ILO) のメンバーであるため、結社の自由に関して ILO 委員会が定めている「労働者の職業的また経済的利益に関する論争の際に、ストライキの権利を規制するのは違法である」といった要求を批准しなくてはならない。国がストライキの権利を規制できるのは、国家の深刻な緊急時に限られる（限定期間）。組合の自由、団体交渉権を有効とすることは、ILO の労働の基本原則と権利に関する宣言の中核であり、締約国はすべて憲法を遵守してそれに従いつつも、この宣言の原理を尊重、奨励し、実現させるべきである。<sup>41</sup>

## 6.6 拷問、その他残虐、非人道的で品位を傷つける罰

アムネスティは、イランで繰り返し報告されている拷問や虐待(女性・子どもを含む)を懸念している。ICCPR

<sup>37</sup> CESCR 概評 4 (1991 年 6 回会議)、7 (1997 年 16 回会議)

<sup>38</sup> HRC 概評 27、7 項 (1999 年 16 回会議)

<sup>39</sup> 個人の権利と責任宣言、グループと社会の組織の促進と人権と基本的な自由の国際理解の保護、決議 53/144、1988 年 12 月 9 日

<sup>40</sup> キューバで 1990 年 8 月 27 日から 9 月 7 日まで開催された第 8 回国連犯罪防止会議により採択

<sup>41</sup> 1988 年 6 月、ジュネーブでの ILO 第 86 回会議により採択

7条では「何人も、拷問や残虐、非人道的で品位を傷つける罰を受けてはならない」と規定している。ICCPRの4条(3)には、この規定はたとえ「国家の存亡を脅かす国家的非常時においても」決して損なわれるものではないと記載されている。CRCは「子どもに関しては、絶対に禁止されなければならない」と強調している。拷問、その他残虐、非人道的で品位を傷つける罰からすべての人を守る国連宣言の9条によると「拷問行為が行われたと十分考えられるような場合は、正式な申立がなくても、即座に公平な調査を行わなくてはならない」とされている。人権委員会は、このICCPR7条(上記に記載)に関連して「拷問や虐待についての申立があった場合は、適切な機関によって迅速かつ公平に調査されなければならない。」とも述べている。<sup>42</sup>法の裁きによる鞭打ちの刑や切断の刑などは、拷問、残虐で非人道的、品位を傷つける罰となるので、いかなる時も行われてはならない。

アムネスティは、囚人や拘留者が適切な医療処置を受けられないことも、国際法や国際基準に違反していると考えている。それはICCPRが規定する「すべての自由を奪われた人は、人道的に扱われるべきである。」(10条(1))や、残虐で非人道的、品位を傷つける罰の禁止(7条)にも反することである。

## 6.7 死刑

アムネスティは、いかなる状況であっても死刑には反対である。死刑は、生存権の侵害であり、残虐の極みで、非人道的、侮辱的な刑罰である。さらにイランはICCPRとCRCの締約国であるため、18歳未満の未成年が違法行為を犯しても、死刑を執行するべきではない。ICCPR6条は「18歳未満の未成年が犯した罪には死刑を科さない」と規定している。またCRC37条(a)にも「18歳未満の少年が犯した違法行為には、死刑も釈放の可能性のない終身刑も科されることはない」と規定されている。石打ちの刑のような処刑は、刑を受けた者が死ぬ前にひどい苦痛を与えられるよう特別に考えられたものであり、アムネスティではこれを拷問の極みと考え、特に懸念している。

アムネスティは、成人間の同意のもとに私的になされた性的関係(同性間の関係も含まれる)を告訴することにも反対を表明している。アムネスティは、イラン当局に早急な法律改正を求め、すべてのイラン国民がこのような関係があったという理由だけで拘禁や刑罰、処刑されることのないよう要求する。

## 7. アムネスティの提言

アムネスティはイラン政府に対し、長年にわたる人権侵害の解決の具体策や、性別・民族・宗教理念・その他にかかわらず守られるべき、全イラン国民の基本的な人権の保証をする緊急対策を取るよう呼びかけている。特にアムネスティは、マフムード・アフマディーネジャード大統領に以下の措置を取るよう要求する。

- ・ すべての良心の囚人を、早急かつ無条件に解放すること。
- ・ いかなる人も良心の囚人、政治的信条・人種・民族・ジェンダー・性別・言語の理由によって差別され投獄されることがないように、法律と運用の再検討すること。
- ・ 裁判もなく、または不公正な裁判の後に有罪判決を受けたすべての政治囚が独立した司法機関により再

<sup>42</sup> 人権委員会 概評 20、7条(1992年 第44回会議) 14項

検討することや、明らかに犯罪行為であるという確たる証拠がない人の迅速な釈放命令など、緊急課題として再検討をすること。

- ・ 囚人が、彼らの選んだ弁護士や家族と定期的に面会をし、必要な場合は適切な医療処置を受けることを許可すること。
- ・ 拷問や虐待に関するすべての申立について、早急で徹底的な調査をすること。方法や調査の結果はすべて公にされるべきである。人権侵害に関わったすべての人が迅速・公正に法の裁きを受け、拷問や虐待の犠牲者には早急に補償がなされるべきである。
- ・ イランの法律の適切な履行と、国連の拷問およびその他の残虐・非人道的または屈辱的な処遇もしくは刑罰を禁止する条約（拷問等禁止条約）の批准と規定の要求を含む、拷問の撲滅を図る効果的な対策を取ること。
- ・ 子どもを拘留するのは最終手段としての場合のみで、その際もできるだけ短い期間、大人の拘留者に支配されることがないように保証すること。
- ・ 死刑執行を一時停止し、生きる権利を尊重すること。そして子どもの囚人、または犯罪時に未成年であった囚人の死刑執行を防止する、迅速な手段を取ること。
- ・ 死刑裁判を含むすべての裁判を保証すること。ICCPR の該当する規程を最低基準として尊重すること。
- ・ 包括的で公平な調査が、人権擁護活動家に対して行われた違法行為についても実施されること。違法行為の責任者は法の裁きを受け、その犠牲者や親族が補償を受けること。
- ・ 人権擁護活動家（ジャーナリスト・弁護士・労働組合員を含む）に損害を与えるような法的手続きの悪用（嫌がらせをしたり、人権や基本的な自由を守るための合法的な活動を縮小させたりする）をした公務員に制裁措置を加える効果的な行動を取ること。
- ・ 1988年12月9日の国連総会によって採択された人権擁護活動家に関する国連宣言の原則が、国内法や人権を守るための構造に組み込まれるのを保証すること。政府のあらゆるレベルの機関は、人権尊重の推進と人権擁護活動家の保護に全力を傾けるべきである。
- ・ 少数民族の土地から彼らの人口を減らす目的で行う、意図的な土地の没収や人口移動のあらゆる政策を中止すること。
- ・ 強制退去の慣習を中止すること：協議、法的手続き、適切な収容施設といった代替案の保証が無いままに、土地や家から退去させられた人びとが存在している。

- 強制退去や「土地収用」に関連した強制国内移動を中止すること。
- 経済活動、教育の権利などの社会・文化の権利、住居の確保、水や公衆衛生、電気など公益事業へのアクセス、多言語教育などの必要とされるものからの事実上の差別を撤廃する方向に向けて、早急な手段を取ること。